

土木學會長

工學博士

岡野昇氏

○
岡野氏は明治三十二年に東大土木科を出で直に日本鐵道會社に入り、水戸保線事務所長を振り出しに保安調査課長となり三十八年歐米に留學、四十二年歸朝後は國有の鐵道院改良課長、保線課長を経て大正九年四月工務局長となり、學位論文により工學博士號を得、大正十三年一月には清浦内閣の鐵道次官となつた。目下は西武鐵道會社社長及び數種の會社顧問の傍ら知慧の會や土木學會、鐵道協會等の世話をしてゐられる。

○
岡野博士は前鐵道次官としてよりも寧ろ政治家たる故岡野敬次郎氏の實弟として能く世間に知られてゐる人である。然しながら氏は技術家としても最も社會性に富んだ人である或時は三十數種の公共事業の委員に推されてゐる事もあつた。

土木學會長としては岡野博士が年の若いレコードであるから所謂若い人から、大に囑望される次第である。

○
岡野博士曰く

土木學會は元來名譽を唯一の信條とする團體でありますから、英國の學會と同様に會員の品性を尊みまして、随つて會員の手になる研究論文や報告でも餘程に權威あるものでないとも學會誌に發表出来ない事になつてをります。

× × ×

斯く權威ある學會の會長として私が選舉された事はまことに名譽な事で非常に光榮は存じますが、會長としての重任を果し得るか如何か實は心配してをります。然し一度選舉



Dr. Noboru Okano,

President of the Japanese Society of Civil Engineers.

されたら斷る事の出来ない例なので、まあ喜んでお受けした次第です。

× × ×

一月二十一日の總會には支障があつて出ませんでした、一月二十八日の關西支部の發會式には行つて來ました、關西の方は二百人程の出席者があり中々の盛會でした、若い人が元氣な意見を發表されてをりました。云々

○

東京に於ても關西に於ても土木學會に若い人を出し度いとも云ふ意見のある事は決して老人排斥の聲ではありません、若い人が從來斯る權威ある先輩の會合に遠慮して出席しなかつた事を遺憾とする一種の激勵であるとも記者は思ひます、經驗の少い人が唯元氣まかせな氣焔をあげたのみでは社會の事一として始まりません、必ず經驗に富んだ先輩の指導教示を得なければなりません、土木學會に先輩が多く出席せられるのは後輩に取つては何よりの良い機會であります。